

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 31

ASEAN グローバルプログラム に参加して

市川 涼太
Ryota ICHIKAWA
電子情報学科 2年

1. はじめに

2019年8月27日から9月5日までの10日間、ベトナム、シンガポールで行われたASEAN グローバルプログラムに参加した。日程を以下の表1に示す。

表1 研修日程

8月27日	ベトナム到着。現地オリエンテーション
8月28日	イオンモール散策, Rikkei soft, NTQ 訪問
8月29日	ハノイ工業大学での PBL 活動
8月30日	
8月31日	民族記念博物館訪問など
9月1日	シンガポール着, WASABI CREATION の Tong 氏講演会
9月2日	南洋理工大学で研究室見学などのプログラム
9月3日	Google 社で講義, 若手ビジネスパーソン交流会, 加藤氏講演会
9月4,5日	自由行動, 帰国

2. 参加目的

私がこの ASEAN グローバルプログラムに参加した目的は以下の通りである。1つ目は「自身の英語力を高めること」であった。TOEIC などの試験で点数を出すことはできるが、現地で英語を使用してコミュニケーションを取る能力がどれほどあるかを知るためであった。2つ目の目的は、「文化の違いを知る」ことであった。日本とは異なる文化を持つ国に実際に訪れ、異文化に触れ、自身の視野を広げるためであった。3つ目は「自分の積極性を高める」ことであった。今まで初対面の人と積極的に何

かをすることは少なかったが、プログラムを通して積極性を高めることができればと考えた。

3. 研修内容

今回のプログラムでは様々な方の講演や講義を聴かせていただき、自分の将来や今後の行動について考えさせられる機会を得ることができた。その中でも特に刺激を受け、学びが多かった「ハノイ工業大学での PBL 活動」について以下に詳しく述べる。この活動では、ハノイ工業大学のベトナム人学生2人と、日本人学生5人でチームを組み、「鈴木栄光堂社の塩レモンキャンディをベトナムでさらにヒットさせる」新規提案をすることをテーマとし、2日間かけて共同作業を行った(図1)。はじめに英語で自己紹介を行ったが、ベトナム人学生はとてもスムーズに英語で自己紹介をし、私は聞き取り、理解するだけで精いっぱいだった。言っていることは何とか理解できても、自分の言いたいことがなかなか伝わらず、自分たちの英語力の低さを感じた。しかし、ジェスチャーで説明したり、紙に図を描きながら説明をしたりするなどして、不格好ではあるが、徐々にコミュニケーションを取ることができるようになった。つぎに日本で事前に考えてきた提案内容とそれを検証するためのアンケート内容について説明した後、大学内で多くのベトナム人学生に対してアンケートを取った。アンケートを取った後にベトナム人学生から質問をされたり、簡単な日本語を教えてあげたりと、グループ以外の現地の学生との交流もあった。ベトナム人学生を中心に約140枚のアンケートを取ることができた。3時間ほどの時間をもらっていたが、集計と合わせると時間ギリギリで何とか終えることができた。アンケート結果では日本で立ててきた仮説が正しく当てはまり、2日目に行う予定だった2回目のアンケート内容についてホテルに帰ってから日本人のみで話し合い、1回目のアンケート結果をもとに、さらに深掘りできる内容のアンケートを作り上げた。

2日目も1日目と同様にベトナム人学生にアンケ



図1 ハノイ工業大学生との合同チーム

ート内容を説明、修正し、アンケートを取り、集計をした。その結果をもとに「塩レモンキャンディを売るための案」を考えた。私たちが考えた案をベトナム人学生にも説明し、理解してもらうことが最も難しかった。細かな違いを説明するにも私たちの英語のみでは伝えることは難しかったが、何度も説明することによって何とか理解してもらえた。ここでは失敗することを恐れず、積極的に行動することを試されたと感じた。その結果、ベトナム人学生と合同での英語での最終プレゼンは表彰こそされなかったが、うまく行うことができた。その後、ホテルで栄光堂ベトナムの代表の方やマイクロアドベトナム社のマーケティング担当の方の前で日本語によるプレゼンを行った。今までこのような場でプレゼンを行うようなことは少なく、グループの意見を発表、質疑応答まですることは無かったので、非常に緊張したが、素晴らしい経験になったと思う。実際に社会で活躍している方の意見を直接聞くことができたり、日常では経験することができないような緊張感を感じたりと様々な経験をさせていただいた。また、他グループのプレゼンではどのグループもそれぞれ違った工夫がされているように感じた。

今回のPBL活動を通して、自分の考えを伝える難しさ、積極性の重要さ、英語力の無さなど、様々なことを経験、認識することができた。しかし、確実に成長することができたとも考えている。積極性などは英語力がないからこそ学ぶことができたとも思う。これらの刺激を今後の学生生活に活かしていきたいと考えている。

4. おわりに

今回、ベトナムとシンガポールでのASEANグローバルプログラムを通して、様々な面で成長することができた。様々な場面で活躍している方の講義や講演会を聞くことによって自分の将来や今後の学生生活について考えさせられたし、南洋理工大学を訪れ、世界トップレベルの授業風景やキャンパスの雰囲気を感じ、自分の今までの学生生活についても考えさせられた。ベトナム人学生とのPBL活動では自分の英語力の無さを痛感し、積極性の面でも劣っていると感じた。しかしそれと共に、日本以外の国の文化について考え、視野を広げることができ、英語が拙いからこそ積極性を試され、成長することができたのではないかとも思える。シンガポールでもTong氏やビジネスパーソンの方の講演を聴き、仕事や求められる人材に対する考え方の違いを学ぶことができたし、日本人の不利な点や有利な点について考える機会をいただけた。日本では終身雇用という考え方が一般的ではあるが、海外では自分の価値を高めるためなら数年で会社をやめ、別の会社に移動するなど、実際にその国で働いている方にしか聞くことができないお話を伺うこともできた。このプログラムを通し、今までの学生生活の過ごし方を見直し、これからの生活をより良いものにしていきたい。